



## 『信長の鉄船』

天正6(1578)年11月、一向宗(いっこうしゅう)を守る毛利軍=村上水軍との二度目の海戦に勝利した織田軍=九鬼水軍(くきすいぐん)の鉄甲安宅船は、堺に入り、港は船をひと目見ようと集まった人々で賑わったといひます。また、宣教師オルガンティノは「王国(ポルトガル)の船にも似ており、このような船が日本で造られていることは驚きだ」と述べています。

大和国興福寺の多聞院英俊による『多聞院日記』に「鉄の船なり、テツハウ(鉄炮)とをらぬ用意、ことこと敷儀なり」とあり、ここから鉄板による装甲をほどこした戦艦、つまり「鉄甲船」であるとされています。

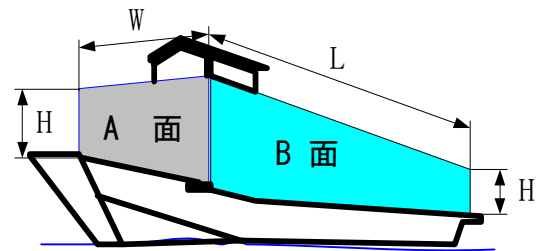
「信長公記」の伝本の一つに記されている鉄船の大きさ、全長18間、幅6間をもとに、高さ(甲板)を仮に2.5間とし、鉄で覆った部分は、全長、幅ともに80%、鉄板の厚みは1分(約3ミリ)と考えてみます。1隻の表面積は310.9/平米、1分板の重量は23.8kg/平米。必要な鉄板の重量は7,400kgになります。6隻分で44トン強、鉄の主要な産地は毛利勢に押さえられ、武器や鉄炮・大砲(おおづつ)にも沢山の鉄が使われた時期にどこからこの鉄を調達したのでしょうか? 外国から、南蛮鉄と言われるものを輸入したのでしょうか?

もう一つ不思議なことは、これらの鉄船はその後どうなったのでしょうか? 木造部分は破棄しても、鉄は再利用したにちがいありませんが、これだけ多くの鉄を使ったのですから、何らかの記録や記事が後に発見されるはずですが、それを見つけることが出来ません。??

本当にこんな船が6隻も存在したか? 疑問になってきました。



主要寸法		間	m	80%	A 面積	38.9
全長	L	18	32.4	25.9	B 面積	116.6
幅	W	6	10.8	8.64	全面積	310.9
デッキ高さ	H	2.5	4.5	4.5	1隻重量	7,398



### オルガンティノ

1533年北イタリア生まれ、イエズス会の宣教師、来日は1570年ルイス・フロイスと共に京都での困難な宣教活動に従事した。

1577年から30年にわたって京都地区の布教責任者をつとめた。持ち前の明るさと魅力的な人柄で日本人に大変人気があった。

### 参考資料

織田信長 小和田哲男・宮上茂隆 編 2002年 河出書房新社

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!